

## 【資料1】

### 第3回検討委員会でのご意見と対応（次期プラン関係）

No.	発言者	分野	概要	対応
1	泉委員	第6章 成果指標	成果指標が現プランとあまり変わっていないのではないか。新しく追加されたものは市民満足度と延べ宿泊者数、リピーター率ぐらい。量から質へのシフトという意味でこれでいいのか。また、再訪意欲とリピーター率が被った指標ではないか。	質の評価は、単価、滞在日数、観光客満足度、市民満足度、日本版持続可能な観光ガイドラインなどにより多面的に評価していきます。 再訪意欲については参考指標から除きます（数値の調査自体は継続して行う予定です。）。
2	井上委員	第6章 成果指標	指標として延べ宿泊者数を入れるというのは非常に重要。観光地としてより魅力的であるというのは、消費や、質を高めることにもつながるかもしれないが、やはり長く滞在してもらうことが非常に重要。国別に延べ宿泊者数が長いのはどこだろうと見ると、各国に合った施策ができるのではないか。	国別の延べ宿泊者数については統計調査を行っておりますが、統計情報を掲載した冊子である「札幌の観光」には一部の情報のみ掲載しておりました。今後は、より詳細な情報を積極的に公開することで、本市の施策のみならず市内事業者の国別の戦略にも活用できるようにしていきます。
3	井上委員	第5章 施策展開	海外や道外だけでなく、道内のお客さんにどうやって札幌に泊りがけで来てもらうか、ということもまちの魅力づくりにつながる。近隣の地方の都市は、買い物する場所がなくて買い物だけ札幌ですというような話を聞く。そうした人が宿泊して観光や体験をしてもらい、長く滞在するようなまちづくりを目指すべきではないか。	施策の方向性1「札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実と付加価値の向上」に基づく施策などにおいて、札幌の魅力を高め、道内容を含む宿泊者数の増加に取り組んでいきます。
4	井上委員	第5章 施策展開	ソフト・ハード両面でまちづくりがあるが、冬に点字ブロックが雪で消えてしまうことなど、国際都市として認められるには小さなところにも目を向けてまちづくりをすることが必要。	施策3-2「ユニバーサルツーリズムの推進」などで、観光客の受入環境の改善について、現状把握をもとに効果的な取組について検討の上、実施してまいります。

No.	発言者	分野	概要	対応
5	荻委員	第2章 将来ビジョン	「行きたい、もっと居たい、また来たい」、そして「住みたい」というところまでがあるといいのではないかと。住むというのがずっとでなくても、最近ではセカンドハウスや、サブスクでのワーケーションなど、時間の使い方が、住むという感覚においても変わってきていると思うので「住みたい」というのもちょっと入れていただくと、よりいい。	様々な滞在の形態があり、また、観光を入り口として移住につながるケースもあると考えますが、「住みたい」を入れると、本プランにおいて定住人口増加に向けた施策を推進するイメージが出てしまうことから、本プランにおいては、そこまで踏み込まないこととしたいと考えます。
6	荻委員	第5章 施策展開	方向性4にMICEのことが記載してあるが、「経済効果」に加えて「社会的な効果」や「環境」というトリプルボトムラインはイメージとして明記してほしい。MICE総合戦略にサステナビリティを軸としたMICEの戦略を書き込む予定であり、上位計画である観光まちづくりプランに、その方向性が示されていると良い。	次期MICE総合戦略と整合を取る形で全体的に記載を見直しました。
7	荻委員	第6章 成果指標	施策展開に記載されているSDGsのゴールの選び方について、MICE分野の記載を精査したい。	記載する施策の見直しに合わせて再検討し、ゴール8を追加しました。
8	荻委員	第6章 成果指標	成果指標で持続可能な部分をどう表現するのか。量から質に関する指標への意見もあったが、そのあたりがやはりあったほうが良い。	指標として「GSTCの国際基準に準拠する認証ラベルの取得等の取組を行った市内事業者・施設数」を追加するとともに、施策5-4(1)に認証ラベルの取得等の推進について記載しました。
9	荻委員	第6章 成果指標	平均滞在日数の目標値が、国内で1.40日、海外で1.50日とあるが、もう少し高い目標数値にできないのか。特に海外客はもう少し高い目標を持っても良いのではないかと。	海外客について、目標値を1.60日に見直しました。 ※別紙参照

No.	発言者	分野	概要	対応
10	金森委員	第6章 成果指標	観光客数の2032年度目標値が2,000万人と区切りのいい数字だが、オーバーツーリズムなどの問題などが出てくる中でキャパシティブ的な部分で妥当なのか。	<p>宿泊施設は、2032年度目標への対応という点では、現状ではキャパシティ不足のため、需要に応じた宿泊施設の供給増や観光需要の平準化の取組が必要と考えます。交通環境については、問題になる可能性は低いと考えます。</p> <p>また、市民生活の観点では、現状でも一定数の市民が観光客の増加による悪い影響を実感していることから、観光客数が大幅に増加した場合にはオーバーツーリズムの懸念があると考えますので、観光需要の分散化や混雑対策等に取り組む必要があると考えます。</p> <p>※別紙参照</p>
11	金森委員	第6章 成果指標	量から質への転換期と考えると、滞在日数をいかに増やしていくのかということが、将来の目的としてあるべき。滞在日数の目標値については、もう一度いろいろなご意見を聞いて設定してほしい。	<p>海外客について、目標値を1.60日に見直しました。</p> <p>※別紙参照</p>
12	鈴木委員	第5章 施策展開	<p>方向性5が非常に薄い。観光客と札幌市を結びつけるメディアーターの話が抜けている。5-2の観光人材の確保・育成というところがものすごくぼんやりしている。これはガイドなのか、観光関係事業者なのか、飲食店なのか、宿泊施設なのか、旅行会社なのか。</p> <p>値段をつけて商品にする人がいないから地域にお金が落ちない。観光客と札幌市を媒介する、仲介するメディアーターとかコーディネートとか、そこをどう考えるか。ハワイ観光局とかだとそこを意識して、エージェント対策をする。そこが完全に抜けている。</p>	<p>5-2(1)に高付加価値コンテンツの造成・販売に関わる事業者やガイドへの支援について追記するとともに、他の施策についても、その狙いが伝わりやすいように記載を修正しました。</p>

No.	発言者	分野	概要	対応
13	鈴木委員	第6章 成果指標	滞在日数の目標値を意もって上げるべきではないか。	海外客について、目標値を1.60日に見直しました。 ※別紙参照
14	鈴木委員	第6章 成果指標	サステナビリティを向上するという言葉が書いてあるが、指標にそれがない。JSTS-Dは認証基準がなくただの参考指標に過ぎないので、GSTC-Dの項目を目指すとか、民間企業のGSTC-Iの認証を市をあげて進める方向で努力する。例えば、何件の宿泊施設がグリーンキーをとるとか、GSTC-Iを目指す企業を5社10社作っていくとか、そういった方向性を明記した方が良い。	指標として「GSTCの国際基準に準拠する認証ラベルの取得等の取組を行った市内事業者・施設数」を追加するとともに、施策5-4(1)に認証ラベルの取得等の推進について記載しました。
15	遠藤委員長	第6章 成果指標	サステナビリティ向上というのは、行政でできることと、民間でできることが違うと思うので、どんな考え方ができるか、指標は難しいとしても、何か抽象的なものでもいいので、意思表示があったほうが確かにいい。	指標として「GSTCの国際基準に準拠する認証ラベルの取得等の取組を行った市内事業者・施設数」を追加するとともに、施策5-4(1)に認証ラベルの取得等の推進について記載しました。
16	遠藤委員長	第5章 施策展開	札幌と観光客をつなぐということについては、観光産業とか観光関連産業についてのことがもう少し入っていてもいいのではないかと。観光関係者を含めた民産官学のコミュニケーションを充実させるといったことを検討してはどうか。戦略を推進してくれるプレイヤーが必要なので、プレイヤーについても追記できることがあれば追記したほうが良い。	5-2(1)に高付加価値コンテンツの造成・販売に関わる事業者やガイドへの支援について追記するとともに、他の施策についても、その狙いが伝わりやすいように記載を修正しました。民産官学のコミュニケーション充実については、第7章推進体制強化の中で検討していきます。
17	古川委員	第6章 成果指標	指標の部分で、定山溪と都市部は若干違うだろうが、定山溪では海外のお客様には滞在型ということで2泊、3泊してもらいたいという動きをしているので、道内の中心でゲートウェイと言いながら、札幌をスルーされても困るので、札幌を拠点に動いていただくような宿泊をしてもらいたい。	海外客について、目標値を1.60日に見直しました。 ※別紙参照

No.	発言者	分野	概要	対応
18	古川委員	第5章 施策展開	観光施設やコンテンツのほかに、滞在中の移動などの生活や暮らしという部分で、特に冬場にお客様が困る状況を想定したうえでいろいろな形のものやっつけていかなければならない。いろいろなものが積み重なって満足度が上がる。 観光にはいろいろな業種が関わっているの、うまくコミュニケーションをとって回していけるような組織をこれから作っていかねばいけぬ。	2次交通や災害対策を含め、観光客が困らないための施策については、推進体制の強化と併せて課題として認識し、様々な角度から継続して検討してまいります。
19	古川委員	第5章 施策展開	観光まちづくりプランは定山溪にとっても上位プランの計画で参考にするので、SDGsやサステナブルなど新しい部分についてどのようにやったらいいかなどをお見せいただきながら協力していただきたい。	今回のプランでお示しする以外の事柄も含め、次期定山溪観光魅力アップ構想の策定にあたっては、協力して進めていきたいと考えております。
20	遠藤委員長	第6章 成果指標	今回の指標にあまり変化を与えないという前提で、将来的に取り組んでいただきたい事柄だが、滞在日数をビジネスホテルに泊まっているお客様と定山溪のようなところを同じ指標でやって平均値を出すのは少しナンセンス。定山溪で宿泊数を伸ばすことと札幌中心部で宿泊数を伸ばすことは戦略が違うと思う。	エリア別の平均滞在日数の算出や戦略構築について、今後の検討課題といたします。
21	桃井委員	第5章 施策展開	札幌・北海道は観光資源が広域に分散しており二次交通は重要。今後ドライバーを含めた働き手が不足していくなかあって、観光、移動の足というところが、MaaSや自動運転のようなDXとかテクノロジーで解決するしかない。外部の事業者と共同で観光型MaaSの「札 Navi」やオンデマンドのAI実証実験みたいなものを過去にやられていたと思うが、引き続き今後やっていく方向性であれば、それについて具体的に公共交通の利便性向上のところ盛り込み、そういうところをしっかりとやっていくという視点を入れていくと良いのではないかと。	施策3-1において、AIデマンド交通の社会実験など、公共交通の利便性向上に資する取組についての記載を追加しました。

No.	発言者	分野	概要	対応
22	桃井委員	第6章 成果指標	もう少し大きい行政単位である沖縄県で、より具体的な環境の指標を入れている中で札幌市が入れられないのは残念。環境に関する施策の記載も少ない。施策5-4（持続可能な観光の実現に資する取組の推進）などで、推奨される取組について具体的に盛り込むことで、環境にも力を入れているという表現ができるのではないかと。	指標として「GSTCの国際基準に準拠する認証ラベルの取得等の取組を行った市内事業者・施設数」を追加するとともに、施策5-4(1)に認証ラベルの取得等の推進について記載しました。また、施策5-4(2)に環境負荷低減等に向けた取組について記載しました。
23	山形委員	第5章 施策展開	観光人材の確保・育成について、海外からのニーズは戻ってきているが、コロナで離職した人材が戻ってきておらず人材不足になっており、旅行者の満足度が上がらないということに繋がりがかねない。若い人で観光業界を目指す人が減ってきており、観光業界がしっかりと収益も上がる形で、若い人が観光業界を目指せるようなものを、このプランとともに見せていけるようなまちが作れたらいい。環境やSDGs、サステナビリティに共感して観光業界を目指す人も出てくるかもしれないので、色々なデータを事業者や市民にどう見せていくのかというところも考えてもらいたい。	施策5-2(1)を観光人材の確保・育成等への支援とし、取組の追加や、記載の修正を行いました。
24	池ノ上副委員長	第1章 札幌市観光まちづくりプランの策定に当たって	観光振興の意義として、創造性・イノベーションといったことが大切で、観光振興の意義のいろいろなところに重なることだが、都市として札幌の機能としてイノベーション性みたいなことが入っていると良い。 例えば方向性5の中で、オープンイノベーションみたいな機能を何らかの形で作っていくことであったりとか、あるいは外部からの資金調達みたいな話も含めて、人材の確保みたいなことであったりも含めて、そういうところにつながっていくといいのではないかと。	観光振興の意義に、「⑤観光を通じた交流の効果」を追加しました。

No.	発言者	分野	概要	対応
25	池ノ上副委員長	第1章 札幌市観光まちづくりプランの策定に当たって	観光振興の意義として、多様性を見出すこと、異文化交流を通して異文化理解ができるようなことが「市民生活の豊かさの向上」の豊かさとは何かを考えたときに必要ではないか。シビックプライド的なことや交流的なことは書いてあるので、多様性理解みたいなことも入ってくると良い。	観光振興の意義に、「⑤観光を通じた交流の効果」を追加しました。
26	池ノ上副委員長	第5章 施策展開	方向性3、方向性4にハードの話が書かれていないのはどうかと思う。何らかの形で書かれているよい。	施策3-1、3-2、4-2において、ハード面の記載を追加しました。
27	池ノ上副委員長	第5章 施策展開	二次交通の話は、政策のレベルだけで入れるのではなく、もっと上位の将来ビジョンのようなところで、満足度や利便性、高付加価値に関わってくるもので、札幌ならではの季節性や雪を克服できる観光、移動の利便性、高付加価値化、満足度の向上のような言葉が入っていると良い。	将来ビジョンにおいて、下線部を追加しました。 「訪れた人々は、 <u>快適にまちをめぐり</u> 、あふれる魅力、居心地の良さに心を掴まれ、再訪を誓っています。
28	池ノ上副委員長	第5章 施策展開	キャパシティの話が入っていると良い。キャパシティの測定や適正化、あるいはキャパシティをどう拡大していくのか、そういった文言が入っていると良い。	「5.2横断的な視点」の「視点2」に、「観光地としてのキャパシティを考慮し、市民生活との調和を図る」視点を追加しました。
29	池ノ上副委員長	第5章 施策展開	人材の話について何か具体的なものが必要ではないか。	施策5-2(1)において、人材確保に関する記載を追加しました。
30	池ノ上副委員長	第5章 施策展開	外国人旅行者が病気になったときにどう対応するのかといった話や、メディカルツーリズムの話もあるので、日本語としてどう書くのかという問題はありますが、医療と観光の接続のような文言もあっても良いのではないか。	医療に関する外国人旅行者への対応については、施策3-1(2)外国人観光客受入環境整備の、医療機関受信時の医療通訳体制の整備や、施策5-5(3)適切な情報発信などにおいて取り組んでいきます。
31	荻委員	第5章 施策展開	プラン本体106ページの観光に関する意識調査でも「食」というのがダントツで1位。SWOT分析でも「(北海道の)食の一大集積地」というのがあり、「農」とか「食」とかいう強みをもう少し打ち出してもいい。	施策として1-1(4)「食の魅力を活用した誘客促進と消費拡大」を追加しました。また、北海道の食を活かした付加価値の高いコンテンツ造成への支援や、さっぽろオータムフェストなどの食のイベントを通じて、地産地消や誘客につなげていきます。

## 次期プランの目標値の受け入れ可能性

次期プランの目標値（観光客数2,000万人、延べ宿泊者数1,870万人、道外客および海外客の合計1,000万人）が、市内の宿泊環境および交通環境の観点で受け入れ可能か考察した。

観点	検証・確認のポイント	結果と考察（各数値はおおまかな推計値）
宿泊環境	延べ宿泊者数1,870万人（2032年目標値）を受け入れるための宿泊施設のキャパシティはあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2032年度の市内での年間宿泊ニーズは、延べ宿泊者数約2,190万人（観光1,970万人、非観光320万人）と推計</li> <li>➤ 2021年度の客室数等から推計する市内の宿泊施設のキャパシティは、延べ宿泊者数2,165万人分であり、ほぼ同数</li> <li>➤ また、現状の繁閑差が継続した場合、繁忙期の7月には、ひと月当たり延べ宿泊者数61万人分（客室数約12,000室分に相当）のキャパシティ不足となる。</li> <li>➤ 以上から、現状では2032年度目標値に対応する市内宿泊施設のキャパシティはない</li> <li>➤ そのため、宿泊施設の供給量の増加と観光需要の平準化に向けた取組が必須</li> <li>➤ なお、市内のホテル等の客室数は2016年度から2021年度の5年間で約7,000室（27,119室 34,073室）増加しており、今後も需要増があれば、民泊施設を含めた宿泊施設の供給量は増加すると考えられる。</li> </ul>
交通環境	道外在住の観光客1,000万人（2032年目標値）が来札するための、飛行機のキャパシティはあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2032年の新千歳空港発着便の想定利用者数は3,111万人と推計</li> <li>➤ 一方、2032年における新千歳空港の旅客数の目標値は、北海道エアポート株式会社の計画から推計すると3,152万人となり、新千歳空港発着便の想定利用者数とほぼ同数。</li> <li>➤ 現状では飛行機のキャパシティは十分とは言えないが、需要に応じて航空事業者は供給量を調整すると見込まれること、一部の観光客は北海道新幹線を利用すること等を踏まると、飛行機のキャパシティ不足が問題になる可能性は低いと考えられる</li> </ul>
	観光客数2,000万人（2032年目標値）が利用できる二次交通のキャパシティはあるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2032年の札幌市の人口は、2018年と比較し4.1万人の減少が見込まれる</li> <li>➤ 一方で、2032年の札幌市の観光客は2018年と比較し416万人増加する目標としており、一日当たりに換算すると1.1万人の増加となる</li> <li>➤ したがって、観光客の増加により市内の二次交通の利用者が増えても、人口減少による利用減と相殺されるため、二次交通のキャパシティの問題はないと考えられる</li> </ul>



## 次期プランの目標値の受け入れ可能性

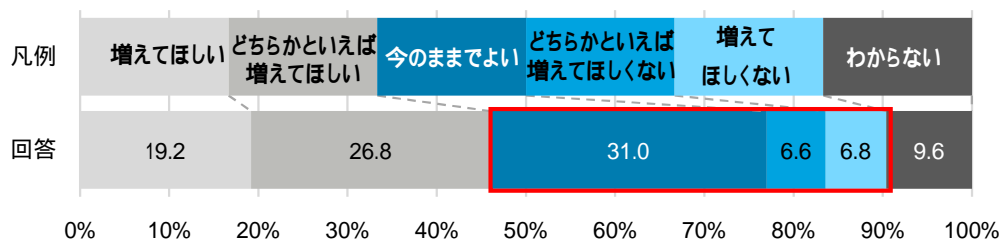
また、市民の観光に関する意識調査より、現状でも一定数の市民が観光客の増加による悪い影響を実感していることから、観光客数が大幅に増加した場合にはオーバーツーリズムの懸念がある。そのため、観光需要の分散化や混雑対策等に取り組む必要がある。

観点	検証・確認のポイント
生活環境	観光客が増えて欲しくないとする市民はどの程度いるのか？
	観光客が増えることで、生活環境面で悪い影響を実感している市民はどの程度いるのか？

結果と考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の意識調査の結果、回答者の44.4%が、観光客数は今のままが良い、あるいは、今以上に増えて欲しくないと考えている</li> <li>札幌に多くの観光客が訪れることで、開発によるまち並みや景観・自然が損なわれる、観光施設周辺の混雑、騒音やごみの増加する、観光客のマナー違反による迷惑など、既に悪い影響を実感している市民が一定数いる</li> </ul>

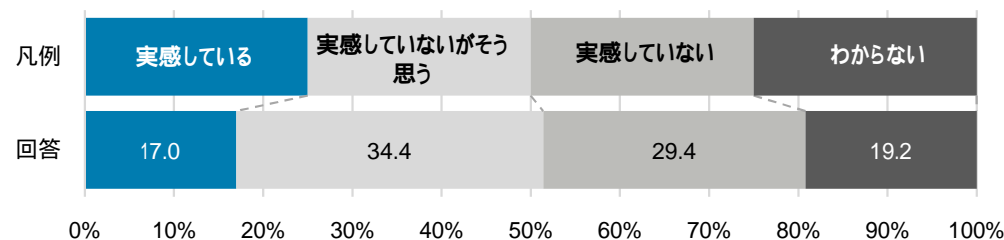
< 観光客の来訪に対する意識調査 >

Q.あなたは、札幌に来る観光客が増えてほしいですか？



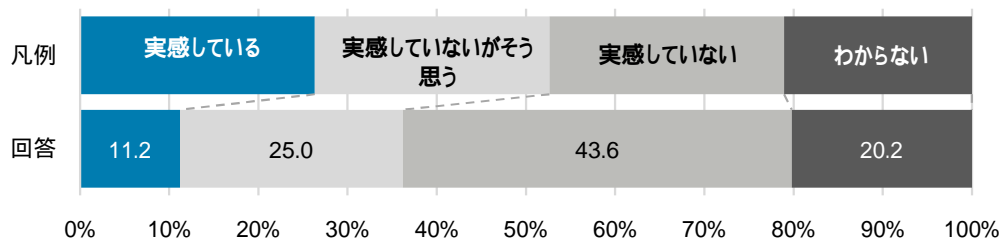
< 観光客の来訪に対する意識調査 >

Q.札幌に多くの観光客が訪れることで、「観光施設周辺が混雑し、騒音やごみの増加等により生活環境が悪化する」と実感していますか？



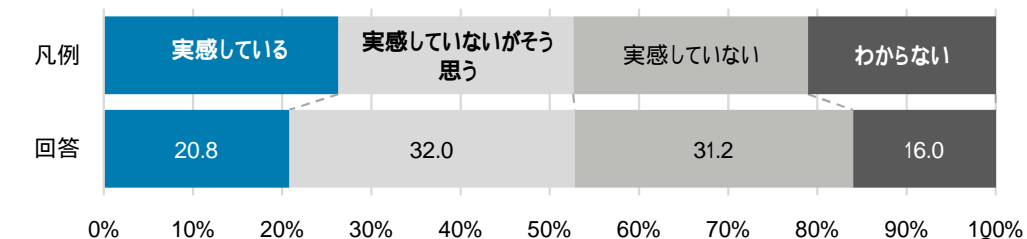
< 観光客の来訪に対する意識調査 >

Q.札幌に多くの観光客が訪れることで、「開発によりまち並みや景観、自然が損なわれ、生活環境が悪化する」と実感していますか？



< 観光客の来訪に対する意識調査 >

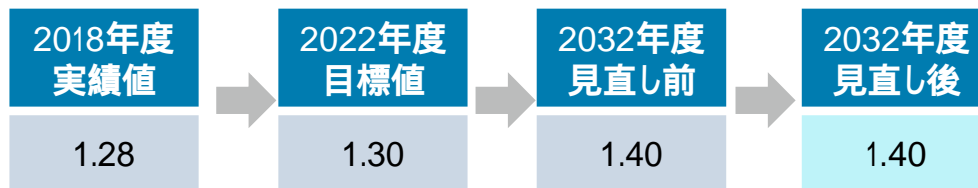
Q.札幌に多くの観光客が訪れることで、「観光客のマナー違反（食べ歩き、騒音など）によって、迷惑する」と実感していますか？



## 平均滞在日数

平均滞在日数は、他の指定都市と同等のレベルまで引き上げることを目標として、国内客は1.4日（2018年比約1割増）とし、海外客は1.6日（2018年比+0.27日）に上方修正してはどうか。なお、今後の推移を踏まえ、5年後の改定時には目標値を再検討する。

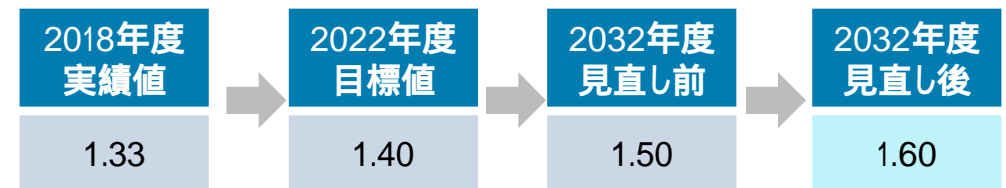
## 国内客



## 【設定理由】

- 日本人の宿泊日数は、直近10年間は1.3日前後でほとんど変動しておらず、週休二日制や来札観光客の周遊状況の実態を踏まえると、今後も大きく増加することは考えにくい。
- また、観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2018年度の札幌市を除く指定都市平均は1.30日と全国平均と同程度。
- なお、堺市・千葉市・京都市は1.4日以上となっている。また、沖縄県や白馬村など海・山岳等のリゾート地などでは1.5日以上も見られる。
- 一方、札幌市の国内客の宿泊日数は改善が見られるが、2019年度を除き1.30日以下となっており、全国より低い。
- 以上のことから、2032年の目標値は、日本人の旅行動態等を踏まえると現状から大きく増加させることが難しい状況ではあるものの、指定都市の中でも上位の都市が実現している1.40日を目指す。

## 海外客



## 【設定理由】

- 訪日外国人の国内滞在日数は、2012年以降、6.0日以下となっていたが、コロナ禍前の2017年を底に増加傾向にあった。
- 宿泊日数の全国平均も、2016年以降増加傾向にある。
- 白馬村や倶知安町などのスノーリゾート地域では滞在日数が長い傾向が見られる。
- 国が策定中の「新たな観光立国推進基本計画」の素案では、三大都市圏を除く2025年の宿泊日数の目標を1.50日としている。
- 一方、札幌市の海外客の宿泊日数は、全国平均と同様、2016年度を底に増加傾向にある。
- しかし、2018年度の指定都市平均1.49日と比較すると低く、指定都市の中でも下位に位置する。
- 以上のことから、2032年の目標値は、国の2025年目標値1.50日、2018年度の指定都市平均である1.49日を上回る1.60日を目指す。